



インプラント治療の基礎知識

① インプラント開発までの歴史的背景

インプラントの研究が始まったのは1940年頃で、その主な目的は材料とそれを受け入れる生体の反応の中で、いかに安定して長期的に維持できるインプラントを開発できるかでした。生体には異物排除機構があり、異物を吸収して排除するか、繊維組織で包んで安定的状態にして受け入れるかの機能があります。この生体反応のため1985年頃までのインプラントは全ての症例では長期に安定した咀嚼機能を維持できず、1990年前半には消滅しました。そんな中、1952年に医学常識を覆す大きな発見がありました。スウェーデンの医科大学のブローネマルク教授が、ウサギの実験から偶然、金属の純チタンが骨と直接結合することを発見し、その後長期に渡る基礎実験と臨床試験を経て、1982年にその結果が発表され、歯科界に衝撃を与えました。この長期にわたり安定したインプラントが主流となり、今日に至っています。

② 本当にインプラント治療しか残されていないのか

そもそも歯科治療は、他の病気の治療と違って生活の質（QOL）を高める医療です。たとえ歯が1本もなくとも死ぬことはありませんし、本人が不自由で不快に感じなければ治療の必要はありません。心臓、腎臓、肝臓などが悪ければ、治さなければ死が待っています。勿論、歯科でも痛み、腫れ、腫瘍など無視することの出来ない病気も沢山あります。

インプラントは、天然の歯と同じように機能的にも審美的にも最も自然に近い姿に戻す歯科医療技術で、現在これ以上はありません。インプラント治療を選択するか否かは患者さんであって、歯科医師が強要するものではありません。インプラントの他に選択肢は必ずあります。